

2018年補装具懇談会報告

補装具プロジェクト担当 佐藤 陽子

今年の補装具懇談会は、9月15日(土)、名古屋市総合リハビリセンターにて16名の参加で開催されました。今回は、自前で装具を製作した方々の苦労や工夫、自分の使用目的にあった車椅子をいかに手に入れたかの話など、最近、装具にかかるいろいろな経験をされた参加者にお話を伺いました。

先ず、木村道夫さんが、自分に合った装具(ソーター)を手に入れるには自分で作った方が良いと思い立ち、近場のホームセンターに出かけ、必要な部品を調達し、持ち前の器用さと工夫で手作りされたものを披露されました。



次に、山本裕規さんが、自ら装具士として培った経験から自身の装具をいかに作製したかを詳しく紹介されました。

前の装具は、全体がプラスチック製であったため、軽量ではあるが荷重時の强度面に不満を感じていたので、今回の装具は强度を优先したことでした。

まず、支柱は金属製とし、足関节部分に継手は持たず、荷重しても一切撓み(たわみ)が出ない構造としたこと、荷重時の安定性を向上させた。また、下腿部のプラスチックのカフを後面ではなく、前面に付けたことで膝下を前面から押さえる形となり膝折れに対する安定性を強化した。



(前回の装具)



(今回の装具)

さらに、足底は、脚長差の補正のため踵を補高したが、必要最低限に小さく削ることで、市販の靴でも履くことができるよう工夫し、足底面をまっすぐではなく、船底型に削ることで、歩行時の装具の転がりを再現し、歩きやすさの向上を図ったなどが説明されました。今回の装具の重量は780gとなり、前回装具の350gの倍以上ですが、金属支柱の强度があるので装具の足を覆う面積を少なくでき、蒸れが軽減できたことも思いがけずよかったですとのことでした。

三番目は田中邦雄さんから、最近、折りたたみ電動車椅子を、市との協議の上、介護保険でレンタルできるようになったことが紹介されました。車椅子は、国土環境メンテナンス(新大阪)の「スマートエスコートα」で、折り畳み式で重量は約20キロとのことで、車の乗せ降ろしも簡単ということでした。

なお、市の指定福祉用具店経由でのみ取引OKとなるそうです。レンタル料金は2,000円／月です。

会場に車椅子を持ち込んでいただったので、空き時間に試乗された参加者からは、操作性や乗り心地など好評でした。また、女性からは車への乗せ降ろしに重さ20キロがネックになると意見がでて、参加者から専用のクレーンを車に取り付けるなら、新車購入時に改造した方が助成金で貰えるので、車の買い替えに合わせて行った方が良いとの情報もいただきました。



折りたたんだ場合

引き続き、吉田廣志さんより、ハンドル式電動車イス（カート）が今年4月から全国全ての列車（地下鉄、路面電車等）に乗入可能になった（国土交通省発での発表）との情報提供がありました。ただ、国は規制を緩めたものの、実際には各鉄道会社の運用に任せていることなどの状況であることが説明されました。

最後に皆さんからの意見交換を有意義に行って終了しました。



「9月2日の三河の会へ参加して」

磯部 邦子

当日は台風前の雨で連日の猛暑も和らぎ、少し過ごしやすい日になりました。ポリオの会に参加させてもらうと色々な方々から貴重な情報をいただけて、いつも感謝でいっぱいになります。

今回も車椅子を乗せる車のこと、薬のこと、駅や建物のバリアフリーの情報がネットで検索できること、ハンドル型電動車椅子で電車に乗れるようになったことなど教えていただきました。

また、今回の三河の会では初めての企画で、歌の講師を招き歌声喫茶のような会になりました。軽いストレッチから始まり発声練習をして、童謡から昔懐かしい歌を10曲ほど歌い、その後は皆さんのリクエスト曲を歌いました。また先生のソロも聞くことができ、楽しいひと時でした。皆で声を合わせて歌うことは、思いのほかストレス発散になり先生の明るくテンポの良い指導にすごく元気をいただいて帰ってきました。

毎回企画を考えてくださる役員の方ありがとうございます。